

No. 39

ねじればね

June, 1978

昭和53年6月30日発行

編集者：後藤光男

〒591

堺市百舌鳥西之町1丁98の2

陵南団地1号棟116局

電話 堺(0722)57局7009番

日本甲虫学会

〒658 神戸市東灘区御影山手2丁目19-8

大倉正文方

甲虫類の虫体表面に付着した汚物を除く一方法

後藤光男

甲虫類の中には採集した個体に付着している汚物をアルコールや湯で洗うとすぐ取り除ける種類と仲々取り除けない種類とがある。大変汚れた個体は別として少し位汚れたまま標本とされているのを見受けるが、人それぞれの感覚の違いと思っている。汚物を取り去る方法については既に報告されていると思うが、私の手許にくる月刊誌、会報、学会誌ではこれまで見たことがない。汚物を取り去る方法については以前に嘉納秀明氏(在英国)より教示を受けて試して見たが仲々具合がよかった。最近学兄伊賀正汎氏より外国産大・中形の食糞コガネムシ類の標本を多数恵与された。それは整脚されていない紙包標本であって休日の一日をこの標本の整理に費した。先づアルコールで汚物を取り除いたあと熱湯で個体を軟化し、脚と触角を整えるという手順を踏んだ。しかし奇麗になった個体に混って更にアルコールによるブラッシングぐらいでは取り除くことができない頑固な汚物の付着した個体があった。そこで嘉納秀明氏に教示された方法を試みた。同氏が汚物を取り除かれる種類はオサムシ科であって特にクロナガオサ、クロナガオサ、マイマイカブリ等で、これらの種は採集時すでに土その他で体表面が汚れている場合が多く、同氏はまだ個体が軟かいうちに汚れた部分に合成糊を塗りつけて、糊が乾いたらその皮膜を剥ぎ取るという方法であり、糊に汚物が付着して虫体に残らないから完全に美しくなるという寸法である。私は最初糊付といえは糊が乾くと完全に貼り付いて離れないものであるとの先入観から危惧したが実際にこの方法で汚物を取り除いて全く具合のよいのに感心した。塗って剥ぐという荒治療なので小形の種類とか剛毛がどうのこうのという種に対しては適さないが、オサムシ科甲虫の間室の鎖線間や顆粒列間の汚物まで完全に取り除くことができる。

頭・胸・上翅等巾広い部位は扱い易いが脚の各節とも軟かいうちの個体であると、かなり無理も可能である。虫体の汚物の取れない部位に先づ穂先の軟かい細筆で合成糊を均等に塗りつける。合成糊が完全に乾ききれば端の方を1号針の先端で小さく剥ぎ起し、ついで先尖ピンセットで剥いてゆく。汚物は糊面に付着しているので皮膜を剥けば汚物も取り去られるということである。採集後の軟かい個体であれば、その取扱いもかなりの乱暴まで許容される。しかし完全に固まった個体であると頭・胸・上翅等での取扱いは楽であるが、触角や脚は慎重に作業を進めないと関節や爪などを破損する恐れがあるので、やはり採集後の軟かいうちに処理することが美しい標本を作る常識でないだろうか。

標本箱の防虫薬容器

後藤光男

標本箱には防虫薬を欠かすことはできない。常時必要で見る標本箱は別として稀にしか見ない標本箱は防虫薬の有無を十分に管理していないと、いつの間にか薬剤が散発しあるいは薬剤がなくなって無防備の状態となり、カビに浸されたり果ては虫害を被って秘蔵の昆虫も台無しとなる結果が生ずる。私は以前にガラス蓋桐製標本箱の底部外側が二重になっていて、その間隙に薬剤を入れる仕様のものを見受けたが、現在では別註規格でない限り市販はされていないようである。あまり防虫薬入れと限って市販はされていないようであるが、志賀昆虫普及社の店頭で紙製三角形のものが置かれていて、標本箱の下方左右の隅に留めて薬剤を入れて使用するようであるが、標本箱の薬剤をどのようにして入れておくかは各人各様の好みであり、ナフタリン錠の針差しやナフタリンを溶かして下方に流し込む等まちまちである。

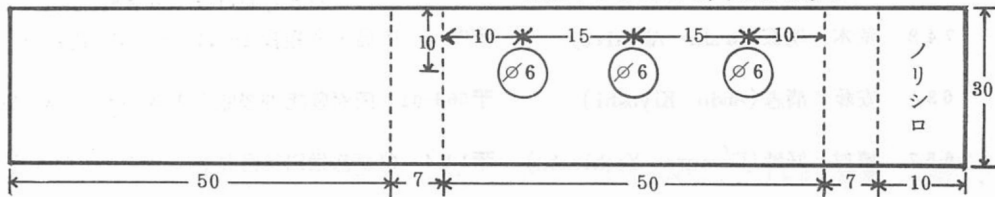
私は粉末ナフタリンとパラジクゾールベンゾールを併用している。粉末ナフタリンは標本箱の大きさに応じて3〜1握を底部にばら撒いており(あまり感心した手段でないと言われるが)、パラジクゾールベンゾールは薄丸型固形2ヶ入りのセロファン包を標本箱の下方左右に各1包づつ針留している。私はこの方法で少なくとも年2回薬剤の補充点検をすることに決めていて、数多くの標本箱への薬剤補充は仲々面倒で手間がかかる。

パラ錠の場合には薬剤が散発して空になったセロファン袋を指で押えて、針差しピンセットで左右の針を抜きセロファン袋を取り除く。ついで新しいパラ錠包の左右端に昆虫針

を差し、標本箱の下方片隅に指先でパラ錠を押し針差しピンセットで左右の昆虫針を押し込んで標本箱にパラ錠を固定する。これが仲々面倒な動作である。ぎっしり標本の詰っている場合だとこの抜き差し過程で虫体に触れて台紙から虫体ころげ落ちたり、脚にひっかけて爪が飛んだり触角が欠けたり被害がでる。特に視力の衰えた年令ではその被害は甚大である。昨年からは薬剤の補充交換は下図のような紙製容器を作って重宝している。最初の薬剤補充は容器を標本箱に固定する手間がかかるが、次回からは薬剤の空袋を抜取って新しい薬剤を差し入れる動作の繰返しだけで事が足りるので案外合理的だと自賛している。

防虫剤容器型紙

.....線は内又は外に折り込み数字は実寸mm
丸はポンチによる穴あけを示す



新 入 会 員



住 所 変 更





退 会



認 定 退 会



投稿規定の一部変更について

Text figure の説明は、本文の最末尾に一括して記入していただいていたが、
今後は編集の都合上、別の用紙に一括して記入していただくことに変更しましたので、ご
注意下さい。ただし、図版説明は今までどおり、本文の終りに記入して下さい。

原稿募集について

「昆虫学評論」の原稿を募集します。甲虫関係には限りません。少々長文でも結構です。表紙裏の投稿規定をご熟読のうえ、どしどしご投稿下さい。ただし、図版はできるだけ、横20cm、縦30cmにアレンジして下さい。また、本文中の図はその挿入個処を必ず原稿の欄外に明記するとともに、図の説明は本文の末尾（図版がある場合には図版説明の後）か、別紙に図の番号順に記入して下さい。

和文原稿の場合は、なるべく当用漢字を使用し（専門語は別）、句読点（、。）を使わず、必ずコンマ・ピリオドを使用して下さい。なおまた、短報もどしどしご投稿下さい。

（最近、図を書きばなしで、未整理のままの投稿が時々ありますが、必ず図版に作成して下さい。）

" 昆虫学評論 " バックナンバー価格表

当会のバックナンバーの価格は下記のとおりです。なお、各巻の1号または2号の分冊売りはいたしません。

第1巻第1号及び第2号と第4巻第2号（他はすべて欠号です）	3000円
第5巻第2号（第1号は欠号です）	5000円
第6～10巻	各巻につき1,000円 5巻全部では5,000円
第11～15巻	各巻につき1,000円 5巻全部では5,000円
第16～20巻	各巻につき1,000円 5巻全部では5,000円
第21～25巻	各巻につき1,500円 5巻全部では7,500円
第26～27巻	各巻につき2,000円 2巻では4,000円
第28～29巻	各巻につき2,500円 2巻では5,000円
第30巻	3,000円

総目録：第1～10巻、第11～15巻、第16～20巻、第21～25巻、第26巻～第30巻をそれぞれまとめて購入される場合は、その当該目録は無料で差しあげます。送料はすべて学会で負担しますから無料です。

標本整理の用具を各種取揃えています

- 好評を得ましたデータラベル印刷用極小活字セットは主要文字と80年までの数字を増し基準セットとして在庫しています。（新鑄造品1セットのみ）
- 標本用各種ラベルの内K（灯火採集表示用）とO（二重線枠のみの任意表示用）はコマ数を増して新しく印刷しました。他は従来通りです。

見本（〒50円）・価格は後藤までご照会下さい。

あ と が き

天皇誕生日に始まった今年のゴールデンウィークも天候は不順でその後も快晴の日は少なく曇り勝ちが続き雨も全般に少なく、大阪近郊では花の開花期と虫の発生期がずれるという結果になり、やや不調で幕あけしたようです。九州では「九州サバク」と評されるほど雨がなくて、特に福岡市では5時間だけ給水されるという深刻な状態が続いて、難儀な生活を強いられていましたが、入梅宣言が出された途端に大雨となって被害が出るという始末です。又6月12日の夕刻には東日本に大型の地震が起きマグニチュード7.5という強烈な規模で、宮城県下を中心として東北地方の広範囲に涉って被害が出ました。年毎に順調な気候で推移した年は無く、何か異常を感じます。被害のひどい両地方の会員諸兄に心よりお見舞申しあげます。「昆虫学評論」第32巻も引き続いて編輯に入っていますので年内にお手許へお届けできると思います。会費も据置いております。

折返し 振替貯金 大阪39672 日本甲虫学会 1巻につき3000円 を送金下さるようお願いします。（5103）